第６回 台東区学校教育情報化推進検討委員会

開催日	令和３年１０月２７日（水）９：３０～１１：００
場所	Ｚｏｏｍによるオンライン開催
出席委員	有村委員、油木委員、宇佐見委員、田中委員、瀬川委員、梶委員、越智委員、関井委員、川田委員、落合委員、佐々木委員、瀧田委員、工藤委員
配布資料	資料１　「台東区学校教育情報化推進計画」中間のまとめ（案） 資料２　同・資料編 資料３　同・検討スケジュール（予定）

■議事概要

１．開会

委員長挨拶

２．議事

（１）これまでの検討の経緯について

資料１について、事務局より説明。

・中間のまとめ案の目次は、前回の委員会で了承されたもの。

・これまでの資料を統合する形で、この目次の構成のとおり事務局案を作成。

（２）台東区学校教育情報化推進計画中間のまとめ（案）について

・前回の委員会での意見に基づき、中間のまとめ案の作成にあたり見直したポイントは、次の３点。

①　計画の位置付けと体系に関する説明を追加

②　基本方針３本柱の名称を変更

③　ＩＣＴ活用目標を上方修正

・見直し①について、７～８ページ

本計画を「台東区情報化推進計画」の下位計画としていたが、連携・調和する関係の計画であるという位置付けに変更。ＳＤＧｓとの関連性を追記。

・見直し②について、10～13 ページ

基本方針３本柱の名称を「システム」・「コンテンツ」・「フォローアップ」から、「環境整備」・「活用推進」・「体制整備」に見直し。

・見直し③について、20 ページの下

家庭学習におけるＩＣＴ活用目標について、端末の持ち帰りを月３回から原則毎授業日に実施するように上方修正。

〇各委員・委員長からの意見

◆見直し①　計画の位置付けの変更について
【田中委員】
・異論なし。
【瀬川委員】
・前に比べて非常にすっきりし、わかりやすくなった。これで問題ない。
【油木委員】
・異論なし。
【宇佐見委員】
・前回は「仮称」という形だったが、今回は「仮称」が取れてこのような組織体系に変わったのか。
⇒事務局より返答
その通り。
【梶委員】
・この形で、位置付けをしっかり明示することで進めていきたい。
【有村委員長】
・特に異論はないが、今回の変更が意味する以下の見解を共有したい。
・学習指導要領の改定で、「社会に開かれた教育課程」が示され、児童生徒の学習活動や、教育課程カリキュラムといった教育の「中身」を社会に開く、という考え方に変化している。
・今回の計画にその認識が表れており、非常に好ましく拝見した。

◆見直し①　ＳＤＧｓとの関連性について
【油木委員】
・ＩＣＴを活用することが、ＳＤＧｓと具体的にどう結びつくのか。子供たちや保護者にはわかりづらい。この考えを教育の現場にどう落とし込んでいくか、わかりやすく示されるとより良いと感じている。
【宇佐見委員】
・組織図では、「学びのキャンパス台東アクションプラン」の下に本計画が位置づけられている。これは、ＩＣＴ活用について、本計画から「アクションプラン」にフィードバックし、両方でＳＤＧｓの達成を図っていくという解釈でよいか。
⇒事務局より返答
「アクションプラン」では、ＩＣＴ活用について、「時代の変化に対応したＩＣＴ教育環境の充実」として示している。論理的思考力を身につけさせる学習活動を展開するため、各学校において必要なＩＣＴ環境を整備すること、GIGA スクール構想や情報モラル教育等を施策として盛り込んでいる。

【有村委員長】
・これからの学校教育のあり方は、論理的な思考力や子供の学ぶ意欲を、どのように持続可能な社会に生かすかがポイントになっている。そのためにＩＣＴの活用をどう機能させていくか。
【瀬川委員】
・ＳＤＧｓの記載については、この内容で結構。
・学校現場では、ＩＣＴの活用によって自分の考えを深め、高めていく活動が現実に少しずつ行われており、いい方向に動いている。
・結果的にＳＤＧｓに繋がる教育が実践されている。
【田中委員】
・ＳＤＧｓに関しては、今やあらゆる企業も行政も避けては通れないため、ここに位置付けられるのは当然。
・ＳＤＧｓの１７項目の一つに「質の高い教育をみんなに」とある。その「質の高さ」と「みんなに」に関しては、今回の１人１台端末を活用し、個別最適な学び、協働的な学びを展開することと親和性が高い。
・「質の高い教育をみんなに」ということを、この端末等の活用でどのように実現していくのか、１パラグラフ追加して加えて書けばわかるのではないか。
【有村委員長】
・田中委員と瀬川委員に質問。ＳＤＧｓの達成あるいはＩＣＴの活用は、学校現場でどのように取り組んでいるのか。
【田中委員】
・ＳＤＧｓというその考え方を踏まえて、すべての活動を見直さなければいけない。
・ＳＤＧｓそのものについても、子供たちが学ぶ必要がある。５年生がＳＤＧｓについて調べて、まとめたことを学習発表会で他の児童に投げかける。
・端末で子供たちに発問し、答えを共有することで、全ての子供たちが教育活動に参加できる。「質の高い教育をみんなに」という言葉を具現化している。
・管理職として、端末を使った授業がＳＤＧｓにつながるという価値づけを、教員にフィードバックし、教育の質を高めていく。
【瀬川委員】
・自分の考えをタブレットから電子黒板に集約して可視化することで、自分の考えと人の考えを共有することは、「質の高い教育」に繋がっている。
・ＳＤＧｓそのものは、中学校では総合的な学習の時間等で学べる学校もある。浅草中ではすべての教科の中で環境や福祉等に触れる部分が多い。それが結果的にＳＤＧｓに繋がっていると思う。

【油木委員】
・ＳＤＧｓを台東区がどう位置付け、教育の現場で実行していくために本計画があるというところが、この文章でもう一歩踏み込んでわかるとよいのではないか。詰め込み過ぎにもなると思うので、事務局に任せたい。
【宇佐見委員】
・ＳＤＧｓと意識していなくても、結果的にＳＤＧｓにつながる学習もある。具体的なつながりを明記した方が、子供たちや保護者も理解しやすい。
【佐々木委員】
・ＳＤＧｓについては、どのような計画でも載せないといけない。
・教育現場との具体的な繋がりを表す一文を載せていただきたい。
【瀧田委員】
・「誰１人取り残さない」社会の実現を目指す中で、情報を取りに行く時代が来ており、ＩＣＴは非常に大切。今世界で、日本で、台東区で何が起きているのか、早く、正しい情報を取捨選択できるよう、育成していくことが大事。
・情報化社会では、間違った情報も世の中にある。ＩＣＴ活用能力を育成することで、正しい最新の情報を得て、自分から様々な社会課題の解決に向かうことができ、それがＳＤＧｓに繋がっていく。
【有村委員長】
・やはり社会課題を自分から取りに行くには、ＩＣＴが有効なツールであり、教育現場でも活用をしている。それが子供たちの学びにつながる。
・学校現場の子供の様子がわかるような文言等があるとよい。事務局には検討願いたい。

◆見直し②　基本方針３本柱の名称の変更について
【油木委員】
・文言に関しては、わかりやすくなった。
【宇佐見委員】
・英語から日本語になってわかりやすくなった。
【瀬川委員】
・わかりやすくなった。
【田中委員】
・柱の整理ができて、つながりがすっきりした。
【有村委員長】
・「体制整備」では「体制」という言葉が使われているが、勢いよく動いていくという意味で「態勢」という言葉もある。絵に描いただけではなく、子供たちや先生、地域の人、保護者が動いていく必要があるということで、「態勢」の意味もあることを意識してほしい。

◆見直し③　ＩＣＴ活用目標の上方修正について

【田中委員】

・ＩＣＴは道具なので、使う・使わないを子供が決めるのが将来的な姿。

・使用頻度については、教師の指導の都合で使うのか、子供が学びのために使うのかが混在している。しかし、混在していてもよい。

・ＩＣＴを使うと学力が伸びるからといって、学力を成果指標にしている自治体もある。台東区があえて頻度を目標としているのは、学校現場を預かるものとして非常にありがたい。正しい姿だと信じている。

・学校におけるＩＣＴの活用頻度のカウント方法は楽にしてほしい。自動的にログが収集されるなどであれば嬉しい。

【瀬川委員】

・持ち帰り回数が毎日必ずというのはどうかと思う。

・区内のある中学校でほぼ毎日持ち帰らせたところ、保護者から「重たい、子供が大変だ」等のご意見をいただき、持ち帰りをやめた。物理的な課題。

・持ち帰った子供が家で勉強していると思ったら、ゲームをやっていたという報告も中にはある。

・課題のために必ず毎日持ち帰ることが必要か、学校としてもこれから考える必要がある。

・持ち帰ることは前提であってもよい。

・家庭のネット環境はほぼ整っているが、バッテリー関係の充電器のこと等、物理的なことも検討が必要。

【宇佐見委員】

・家庭学習については、小学校だと多少保護者が関われるが、中学生は自分の部屋に入りっきりの状態が多い。どのように活用されているか、保護者は把握しづらい。

・ＩＣＴ機器の使用を本人の意志や判断に任せる場合、どこまで活用できるのか。ネットにつないで、学習ではないことをしている場合がある。

・毎日持って帰ってくることが目的になってしまうと、本来のＩＣＴ活用とはちょっとずれてくるのではないか。

・実際に家庭学習へＩＣＴをどう活用していくか、学校や教育委員会等から具体例を出してほしい。家庭に対しての説明を具体的に考えているのかお聞きしたい。

【工藤委員】

・単に持ち帰るだけにならないよう、教育委員会でも示す必要がある。

・実際に導入済の学習用ソフトは、ドリル型で取り組め、進行状況を教員が把握できるので、例として示すことができる。

・その他にも様々なコンテンツがあり、各学校で実践しているものもある。端末は道具としての意味があり、教育委員会として連携ができる。

【宇佐見委員】
・各学校にも各家庭にも、意図や方法が伝わるようにしてほしい。
・すぐに浸透させるのは難しいが、計画は７年度までつながっている。初年度はやはり重要であり、情報発信を多く具体的にしてもらいたい。
【油木委員】
・小学校では、一斉休校や学級閉鎖に備え、毎日持ち帰りをしていると聞いた。
・忍岡小学校では、月１回オンラインを実施しているが、越境通学の子や学童の子は、学校に残って参加しているのが現状。本来の目的とはまた違う。
・ＩＣＴの考え方は市区町村や学校によってかなり違う。毎日持ち帰り、連絡帳をタブレットと併用しているところもある。
・宿題もオンライン提出となると、良さもある一方で、インターネットからコピーや切り貼りをする子供もいる。調べ学習をしても、検索結果で一番上にきたものが正しい情報だと思う子供もいる。
・「ネットリテラシー」について、誰がどこでどのように教えるのか。学校の先生任せになるのは、非常に申し訳ない。当然、家庭と共同してやっていくところかなと思う。丁寧に行わないと、せっかくのツールが、誤った使い方をされてしまう。それこそ、今ニュースで取り上げられている町田のような状況になりかねない。大変危惧している。
・持ち帰ったとしても、1 日 10～60 分間の利用が難しい家も正直ある。使う目的が家庭にわかるような形で、相互理解が進むとより良いと思う。
【田中委員】
・上野小学校では、夏休みから、９月以降も全員端末持ち帰りをしている。
・ＩＣＴを「文房具」だと考えれば、勉強するときには使うが、勉強しないときは使わない。ならば家に帰って勉強しない日は持ち帰らなくても良い。ただ、ＩＣＴはそれ以上に「便利ツール」であり、ある意味なくてはならないものという考え方もある。
・ＩＣＴが学習のための「道具」であれば、使用を強制するのはおかしい。「学びをデザインする力」を子供たちに付けさせたい。そういう時にツールとして使うということになると、基本的にＩＣＴは「便利ツール」なので、毎日持ち帰るべきだ。
・家と学校で持ち運びをするものを、端末に加え、例えば「明日学校で理科のテストがあるから今日は理科の教科書とノートを持って帰ろう。あとは置いていこう。」と、最終的には子供が自分で学びをデザインするために、何が必要か取捨選択する。それが最終的に自立への道に繋がる。小学校１年生から６年生まで系統的に力をつけて、中学校に送り出したい。
・「文房具」として使うのであれば、なくてもいい日もあるが、「便利ツール」として使うのであれば、手放せないものになる。上野小ホームページでは「連絡帳って何だろう」という記事を掲載しているが、ある学級では Teams

を連絡帳代わりに使っている。
・学習の時間として 10～60 分程度活用するという枠を設けるのはどうなのか。連絡帳として使う時間は 60 分の中に入るのか。その辺りの考え方を整理した方がよい。
・連絡帳機能のような、先生方も子供たちも便利に使えるものがあれば、自動的に毎日持ち帰りをすることになる。
【油木委員】
・連絡帳は、生徒にとっても、抱えている仕事が非常に煩雑で多い先生にとっても、利便性があり、問題解決ツールの一つとして利用されるのであれば、それが一番よいと思う。

・紙ベースでも、家庭に見せる子と見せない子がいる。紙であろうがタブレットであろうが、家庭での指導のあり方次第。ぜひ先生方の方からも、お声がけいただけるといいかなと思う。ＰＴＡとしては、家庭と学校をどう結びつけていく役割になれるかと思っている。
【有村委員長】
・議論を聞いていて思うが、家庭と学校を横に並べ、連携するような書き方にできないか。縦に「学校での活用」、「家庭での活用」と書くと順番的な言い方になる。平時の教育活動、子供たちの学びを高めるためにするのであれば、こう連携する形のような図式にしてみると、非常に分かりやすく、使いやすいのではないか。

（３）資料編について
資料２について、事務局より説明。
・委員会の要綱、委員名簿、検討中の教育情報セキュリティポリシーの基本方針は、今年度中に庁内で決裁の手続きをしていく予定。

〇各委員、委員長からの意見
【宇佐見委員】
・資料 22 ページ４番「支援体制」の「ＩＣＴの支援員の配置」について、令和４年度で４校に１人と、すでに具体的な数字がある。中学校は７校あるから２人、小学校だと 19 校だから５人と、もう配置はできているのか。
・設置基準は、何を元にこのような配置を想定しているのか。
⇒事務局より返答
・設置基準は、国が示した４校に１人という基準に則っている。小学校も中学校もおよそ週１日来てくれる、という感覚。
・大変校内で活躍しており、先生方からの質問や個人研修、授業サポート等を行っている。

【田中委員】
・支援員がいないと回らない、という学校が多いくらいの存在。徐々に頻度を減らしていく自治体もあるようだが、ぜひ引き続きお願いしたい。
【瀬川委員】
・同様に大変活用しており、授業のフォローをしていただいている。ぜひこのままの体制にしていただけるとありがたい。
【油木委員】
・支援員の体制もだが、学校によって進捗度合に差がある状況を、よい方向に統一していきたい。支援員の拡充や内容の見直し、先生方の研修など。場合によっては計画の中に示せればより良い。
【工藤委員】
・各学校のホームページを見ると、９月から端末の持ち帰りも含め、かなり活用が進んでいる様子がわかる。
・学校によって活用状況に多少差ができている。そこをどう埋めていくか、教育委員会がこれから考えていく必要がある。
・昔に比べ、ＩＣＴは使いやすくなっている。その良さを先生方に知ってもらい、積極的に使える環境を整備していかなければならない。
【有村委員長】
・「情報活用能力」が学習指導要領に位置付けられ、同時に子供たちの言語能力を育てるということとセットになっている。単なる活用能力だけではなく、子供たちの学びが深くなることが大切。台東区の子供たちにとって中身が豊かになるようなプランになってほしい。

（４）今後の委員会の開催について
資料３について、事務局より説明。
・次回の検討委員会は、来年１月１９日の午前１０時に開催予定。

３．閉会